

開催地名	宮崎県 木城町
開催日時	令和7年2月12日(水)13:10～14:40
開催場所	木城町役場 3階大会議室
語り部	蔵原 正敏(熊本県宇城市)
参加者	木城町役場職員 36名
開催経緯	本町では、大きな災害の被災経験がないために、職員の危機意識が低く、防災業務を他人事として捉えているように感じており、それぞれの防災事務分野における対応促進が図れていない状況であった。そこで被災地からの実体験を交えた講話について、被災地での活動等実体験の話を直接聞く機会を設け、地域防災力の向上の参考としたい。
内容	(1)開会挨拶 2024年2月12日、木城町にて防災研修会が開催された。本研修の目的は、職員一人ひとりの防災意識を向上させ、町全体の防災力を高めることである。防災は危機管理係だけの役割ではなく、すべての職員が自身の業務に関連する防災対策を意識する必要がある。本研修を契機に、防災の視点を業務に取り入れることが求められた。 本研修は、消防庁の防災意識向上プロジェクトの派遣事業を活用し、熊本県宇城市より語り部を講師に迎えた。語り部は平成28年の熊本地震時に危機管理課長を務め、実際の災害対応に携わった経験を持つ。現在は再任用職員として勤務しており、本研修では自治体職員としての実体験をもとに、大規模災害対応の課題と教訓について講演を行った。 (2)講演:「熊本地震の教訓と自治体の対応」 ◇(1)熊本地震の発生と初動対応 平成28年4月14日21時26分、熊本地震が発生した。宇城市では震度6弱を記録し、その後も余震が続いた。4月16日1時25分には本震とされる震度7の地震が発生し、被害がさらに拡大した。 地震発生直後、市役所では防災行政無線を通じて住民に安全確保を呼びかけ、消防団や消防署・警察と連携し、救助要請の確認を行った。発災後1時間足らずで第1回災害対策本部を開き、避難所の開設を最優先課題として対応した。地震発生から約1時間後には最初の避難所を開設し、市内11か所の避難所運営を開始した。 ◇(2)避難所運営の課題と対策 地震直後、避難所の開設が進められたが、避難者数は急増し、運営が困難となった。最初は11か所で945人の避難者を受け入れたが、本震後には避難所を20か所に増設し、最終的に1万1000人以上が避難する状況となった。 職員の負担も大きく、1か所の避難所に2名の職員を配置し、3交代制で運営を行った。食料や水の確保が課題となり、災害協定を結んでいた地元スーパーも被災し、物資の供給が困難になった。そこで、別のスーパーや製パン工場と連携し、食料の確保に努めたが、それでも十分な供給には至らなかった。 ◇(3)罹災証明の発行と行政対応 地震後、住宅被害の確認が急務となり、罹災証明の発行業務が開始された。証明書交付受付には多くの住民が訪れ、初日は長時間の待機が発生した。これにより、住民の不満が高まり、対応策として翌日には発行ブースを増設し、対応にあたった。また、途中から整理券を取得後、一旦帰宅するなど外出方式をとり、防災行政無線やホームページなどを活用し、交付状況を住民に案内することで、混乱を最小限に抑えた。 また、他自治体の応援職員を活用し、申請受付・証明書交付や被害認定調査の業務を分担した。さらに、調査対象地域を区分し、同じ地域内で効率的に確認を進めることで、業務の迅速化を図った。 ◇(4)消防団の活躍と地域の支え 地震発生後、消防団は昼夜を問わず活動し、地域内の防火・防犯活動や避難所支援を行った。火災防止のための巡回も行い、結果として3か月間火災ゼロであった。地震後の犯罪発生もほぼゼロに抑えられ、地域住民の協力と防犯意識の高さが発揮された。 また、消防団をはじめとした住民の自主的な支援活動も活発であり、要支援者の確認や物資配布がスムーズに行われた。防災訓練の重要性が改めて認識される結果となった。

	(3)まとめ 熊本地震の経験を通じて、自治体職員の初動対応の重要性が強調された。特に、以下の点が重要な教訓として挙げられた。 1.避難所運営の効率化 ○ 物資の確保、職員の配置、住民への情報提供の仕組みを事前に整備する。 2.罹災証明発行の迅速化 ○ 受付体制の強化、被災者支援システムの導入、情報共有の工夫を行う。 3.消防団・地域住民との連携 ○ 訓練を通じた協力体制の確立が、災害対応の迅速化につながる。 4.職員の健康管理 ○ 長期的な災害対応には、交代で休暇を取り、持続可能な業務体制を構築する。 最後に、語り部は「地震災害の対応は長期戦であり、職員の心身の負担を考慮した体制づくりが不可欠」と述べ、今後の防災対策への意識向上を呼びかけた。 本研修を通じて、木城町の防災力向上に向けた具体的な取り組みが求められることが再確認され、閉会となった。 
開催地より	実災害を体験している語り部の体験談から改めて、避難を継続すること大切さについて痛感した。此度の講話を今後の防災活動や出前講座に活かしていきたいと思う。